

3.1.8 送風機特性

重複を避けるため下記に収録ページを掲載しましたのでご覧ください。

形式	収録ページ
ASJ150DC	ASJ140と同一80ページ参照
ASJ150DCT	ASJ140Tと同一90ページ参照
ASJ212DC	DPJ250と同一134ページ参照
ASJ300DC	DPJ315と同一135ページ参照
ASJ425DC	ASJ400Aと同一92ページ参照
ASJ600DC	ASJ560と同一92ページ参照

3.1.9 運 転 音

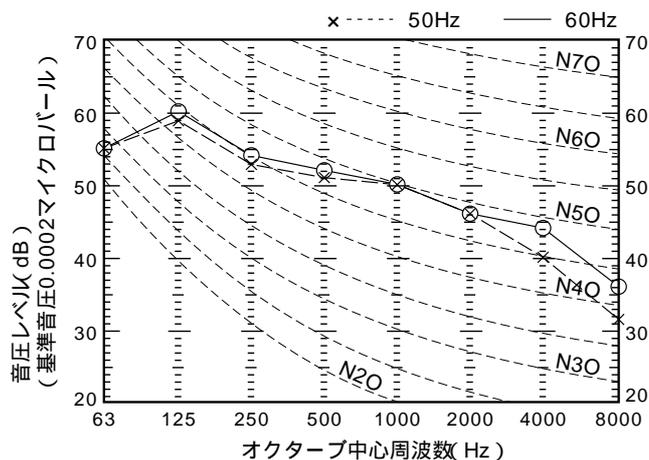
重複を避けるため下記に収録ページを掲載しましたのでご覧ください。

形式	収録ページ
ASJ150DC	ASJ140Hと同一54ページ参照
ASJ150DCT	ASJ140HTと同一54ページ参照
ASJ425DC	ASJ400HAと同一54ページ参照
ASJ600DC	ASJ560Hと同一54ページ参照
AUCJ150DC	AUCJ140Hと同一55ページ参照

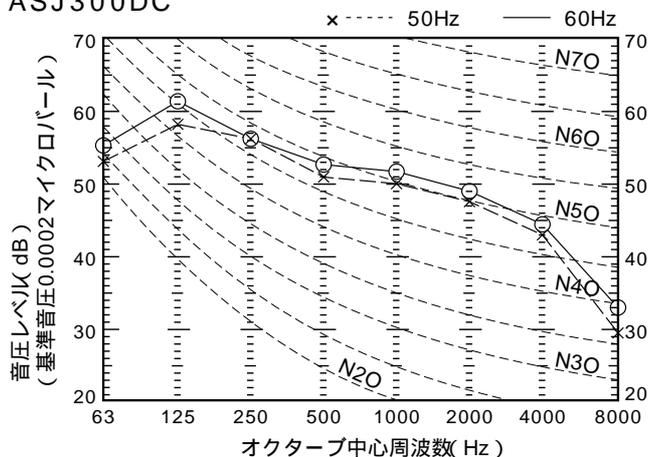
(1) 室内ユニット

測定条件：JIS-B8616冷房（標準風量）
測定場所：無響室
マイク位置：正面前方，高さ各1m

ASJ212DC



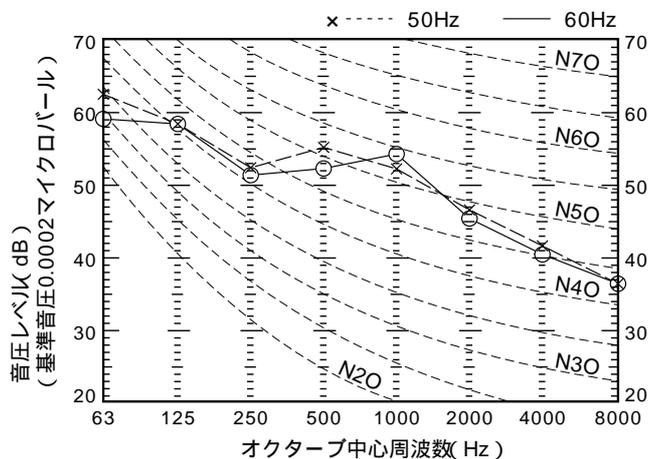
ASJ300DC



(2) 室外ユニット

測定条件：JIS-B8616冷房，
測定場所：無響室
マイク位置：JIS-B8616に基づく
819ページをご覧ください。

AUCJ212DC，300DC



備考 実際据付後測定した場所周囲の状況により
上記のデータと異なることがあります。

3.1.10 据付関連事項

(1) 室内ユニットの据付

(a) 据付場所の選定

- 1) サービススペース.....前面1m以上
- 2) 電気ヒータ取付機の安全スペース
(電気を熱源とする温風暖房機の設置に関する運用基準より)
・上面10cm以上，背面・側面5cm以上，
前面60cm以上，吹出口前面1m以上。
- 3) 加熱器組込み方向.....正面より組込可能

(2) 室外ユニットの据付

(a) 据付場所の選定

- 1) 据付部の床が強固な所。
- 2) 他の熱源から熱輻射を受けない所。
- 3) 吸込口・吹出口に風の障害のない所。
- 4) 吹出口に強風の当たらない所。
- 5) 騒音や熱風が近隣の迷惑とならない所。
- 6) 雨水および除霜運転時の融水の水はけのよい所。

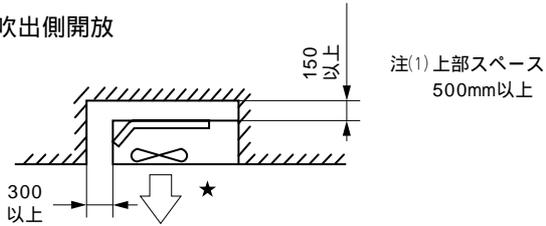
7) ヒートポンプ機は降雪地では積雪で埋らないよう
 架台（過去最大積雪以上の高さ）および防雪フ
 ードを設けてください。防雪フードについては三菱
 重工冷熱機材㈱にお問合わせください。

8) 塩風や塩分を含んだ水が当たらない所。

(b) 据付スペース

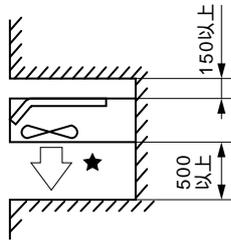
1) AUCJ150DC

吹出側開放

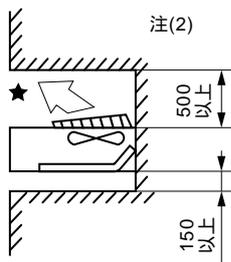


注(1) 上部スペース
500mm以上

吹出側障壁有り
 左側面開放



右側面開放

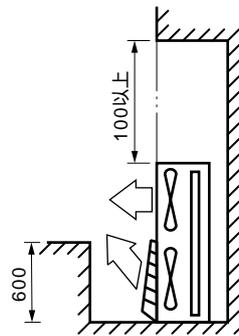


注(2)

注(1) 吹出口前面の障壁はユニット高
 さ以下とし要すれば架台を設け
 てください。

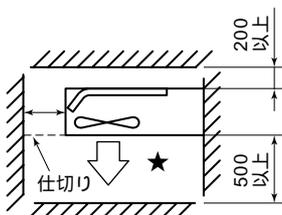
(2) 別売品の風向可変アダプタは横
 吹き方向に取り付けてください。

(3) 前面の障壁高さが低い時は右図
 のように下側だけ風向調節アダ
 プタを取り付けてください。



四面障壁

原則的に据付不可能ですが障壁高さがユニットの高さ以
 下で下図のスペースが有り上部が開放であれば据付可能
 です。

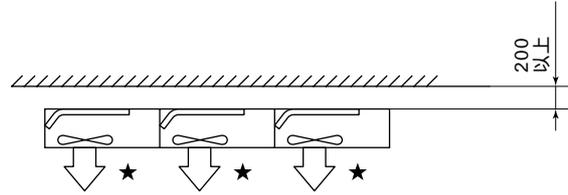


複数台設置

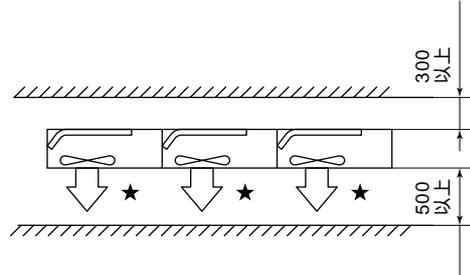
左右連続設置

〔ユニット間に10mm以上の隙間を設けてください〕

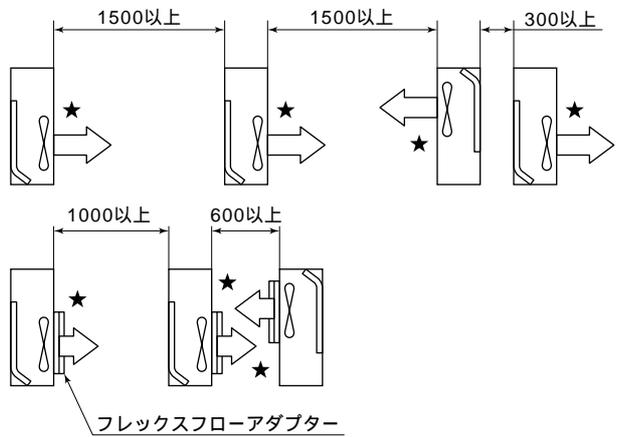
・吹出側開放



・吹出側に障壁有り

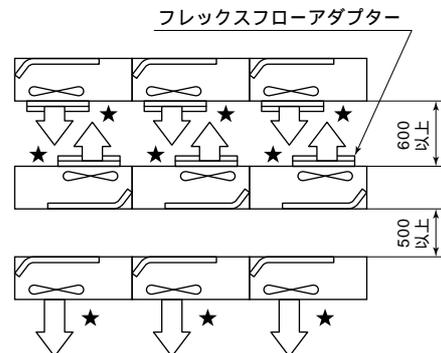


対向設置

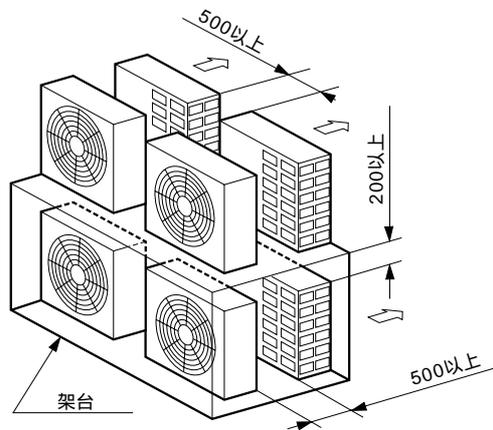


左右連続・対向設置

〔ユニット間に10mm以上の隙間を設けてください〕

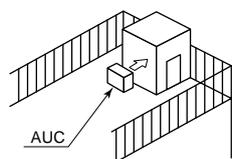


架台を使用の場合

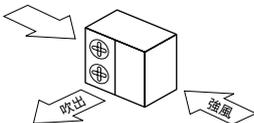


強風が吹きつける場合

- ・吹出口を壁面に向け500mm以上離してください。

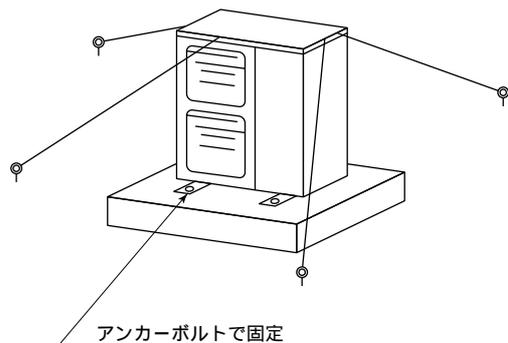


- ・吹出口と風向を直角にする。



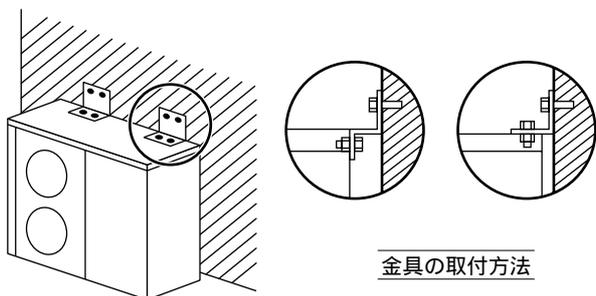
- ・転倒防止要領

下図のように固定してください。



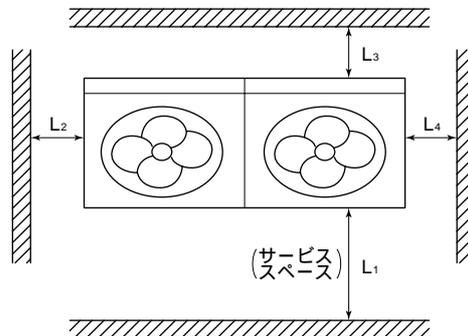
{ 針金は錆びに強く強度のあるものを使用してください。〔例〕SUS304-W1(軟質1号)線径 2.9mm }

- ・転倒防止金具(現地手配)で固定



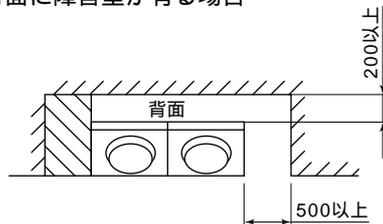
金具の取付方法

2) AUCJ212DC, 300DC



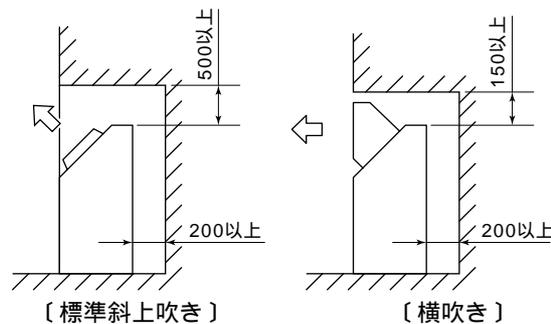
据付例 寸法			
L ₁	開放	開放	500
L ₂	0	500	500
L ₃	200	200	200
L ₄	500	0	500

側面・背面に障害壁がある場合



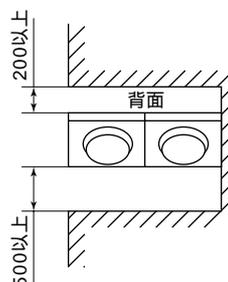
注(1) 右側面を障害壁に密着しての設置もできます。その場合は左側に500mm以上のスペースを設けてください。

上部に障害物がある場合

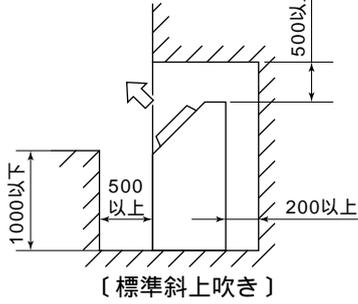


注(1) 横吹きは別売品の風向可変アダプタを取り付けた場合を示します。

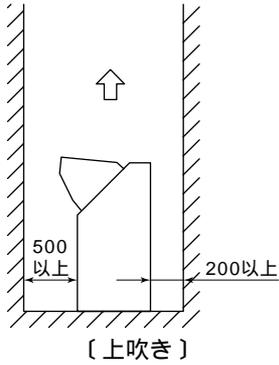
側面(前後面)に障害物がある場合



上部に障害物がある場合

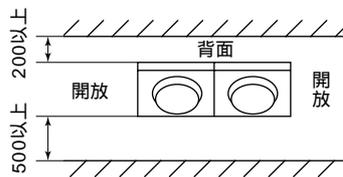


上部開放の場合



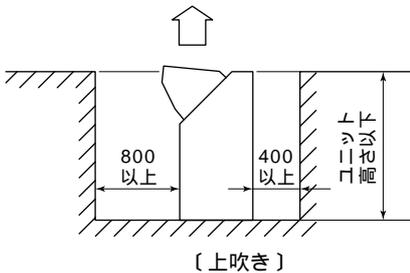
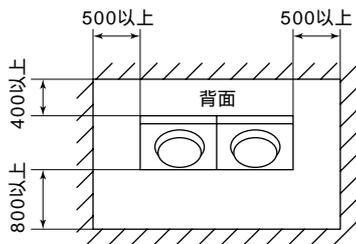
注(1)〔横吹き〕〔上吹き〕
はいずれも別売品の
風向可変アダプタを
取り付けての
場合を示します。

路地等(前後に障害物)への設置



注(1) ユニット上部のスペースは、前記の「側面(前・後面)に障害物がある場合」と同じとしてください。

四面障壁の場合

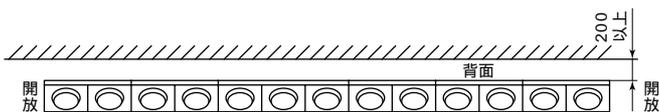


注(1)〔上吹き〕は別
売品の風向可変
アダプタを取り
付けての場合を
示します。

複数台設置

左・右連続設置〔前面側開放〕

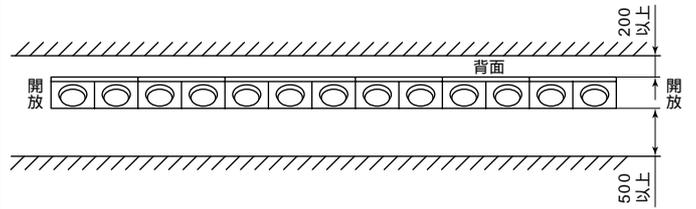
〔ユニット間に10mm以上のスペースを取ってください〕



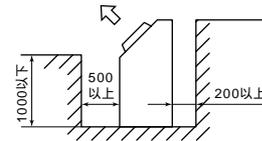
注(1) 連続設置の場合、台数制限はありません。
(2) 上部スペースは開放としてください。

左・右連続設置〔前・後面に障壁〕

〔ユニット間に10mm以上のスペースを取ってください〕

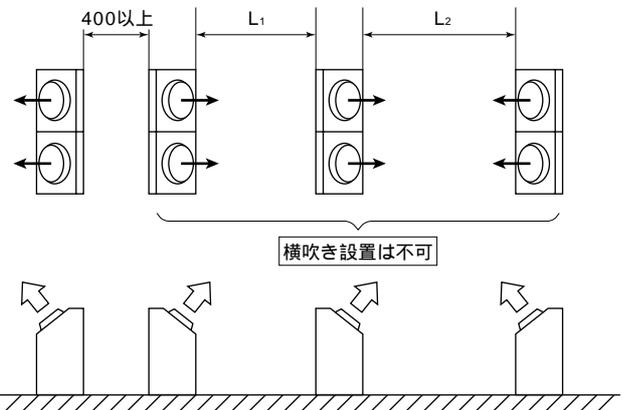


注(1) 連続設置の場合、台数制限はありません。
(2) 背面の障壁はユニット高さ以下、前面の障壁は1000mm以下としてください。



注(1) オプションで上吹きに
変更する場合は前面障
壁もユニット高さ以下
とすることができます。

対向設置

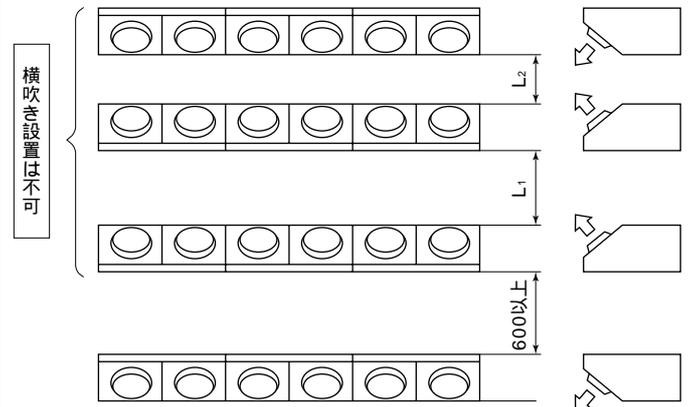


注(1) 吹き出しは斜上吹き(標準)又は上吹き(オプション)として
ください。

	L ₁	L ₂
斜上吹き	1500以上	1000以上
上吹き	500以上	500以上

左右連続・対向設置

〔ユニット間に10mm以上のスペースを取ってください〕



注(1) 吹き出しは斜上吹き(標準)又は上吹き(オプション)として
ください。

(3) 関連機器の取付けについて

(a) 電気ヒータ

1) 電気ヒータは弊社純正品をご使用ください。

純正品は電気ヒータがパッケージ本体に及ぼす影響、安全性を確認して製作しています。
取扱い先：三菱重工冷熱機材(株)

2) 取 付

a) 取付けに当っては「火災予防条例」等を遵守してください。

電気ヒータ取付機の安全スペース（電気を熱源とする温風暖房機の設置に関する運用基準より）：上面10cm以上、背面・側面5cm以上、前面60cm以上、吹出口前面1m以上。

b) 電源：パッケージ本体とは別電源にしてください。

c) 操作回路：電気配線図(161ページ)をご覧ください。

3) 電気ヒータ容量増強

仕様欄に示す取付可能最大容量は、再熱ヒータ用として本機内に取付済の電磁接触器、配線関係の容量から決めてあります。電気ヒータを増強する場合は電気ヒータ用電磁接触器、配線関係を変更すれば下記の容量まで取付けできます。

電気ヒータは弊社純正品をご使用ください。

(取扱い先：三菱重工冷熱機材(株))

ASJ150DC	16kW
ASJ150DCT	16kW
ASJ212DC	24kW
ASJ300DC	32kW
ASJ425DC	48kW
ASJ600DC	64kW

(b) 加湿器

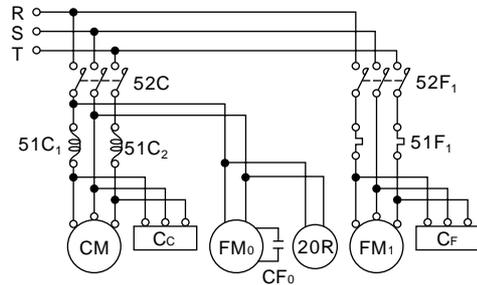
1) 電気ヒータ使用機には、スプレー式加湿器は使用しないでください。この場合はパン形加湿器または超音波加湿器をご使用願います。

2) 本機内に加湿器を内蔵する場合には加湿効率は悪くなりますので必要加湿量の多い場合は吹出空気にて加湿する方式あるいはファン内蔵型別置加湿器をご使用願います。

(c) 進相用コンデンサ

進相用コンデンサは送風用電動機、圧縮用電動機と各々並列に電磁接触器の二次側又は、モータ端子に接続してください。コンデンサ容量等については163ページをご覧ください。

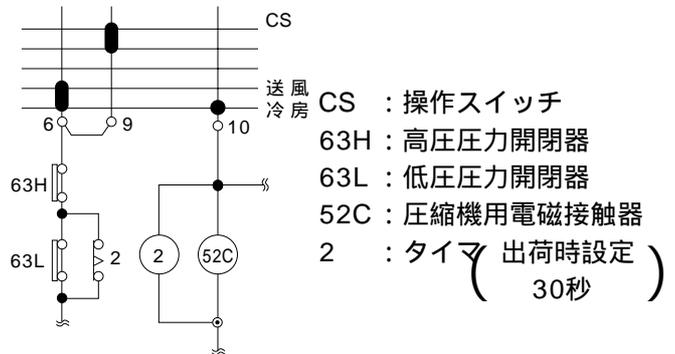
(例) ASJ212DC



(注)(1) Cc...圧縮用電動機進相用コンデンサ
Cf...送風用電動機進相用コンデンサ

(4) 始動保障回路(寒冷地にての使用の場合)の調整

始動時63Lが働いて運転できない場合、タイマーの設定を60~180秒の間にして試みてください。それでも運転できない場合、冷媒量不足になっている可能性があります。冷媒漏れのチェックを行い500g単位で追加チャージしてください。この場合、始動時の低圧を観察し冷媒量が過剰にならない様注意してください。

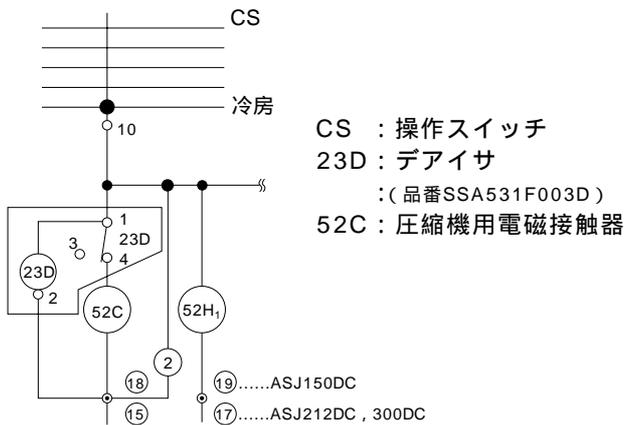


(5) 霜付防止回路

室内湿球温度が14 WBを下回る場合、冷却器の霜付きを防ぐ回路をご検討ください。方法として、デアイサにより圧縮機を止め、送風により融霜するものと、ホットガスバイパスにより冷却器の冷媒蒸発温度を高く保つ方法が考えられます。

(a) デアイサによる場合

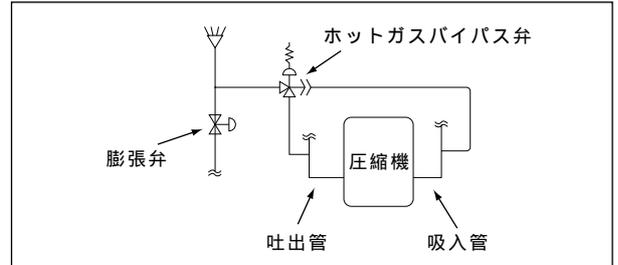
比較的安価に霜付防止を施こすとき、または本機を乾燥機としてご使用になる場合等に適します。但し融霜中湿度が一時的に増加することをあらかじめ含んでおく必要があります。デアイサとして品番SSA531F003Dを使う場合の結線例を下図に示します。



品番SSA531F003Dの感温筒は、膨張弁～ディストリビュータの間に取付け、状況を観察してください。霜付きの程度、融霜の不良があれば、適宜、取付場所を選定してください。

(b) ホットガスバイパスによる場合

室内湿球温度がおよそ10 WB以上で安定した湿度環境が要求される場合に適します。但し、ホットガスバイパス弁で高圧部より低圧部へ冷媒ガスが流れる際に騒音が生ずること、及び冷媒回路の改修に伴い、費用がかさむことをあらかじめ含んでおく必要があります。



ホットガスバイパス弁として(株)サギノミヤCTX弁を使う場合を上図に示します。吸入圧力が0.35(3.5)~0.38(3.8)MPa(kgf/cm²G)となる様に、ホットガスバイパス弁を調節してください。

3.1.11 仕様変更受注範囲一覧……………147ページをご覧ください。

3.1.12 防振設計用参考資料……………148ページをご覧ください。